

高密度労働なのに低賃金

民間委託分野における官民格差を直視し、
官民が一体となった労働運動を

まさのり
雅則

かわむら
川村

(北海学園大学准教授)

■はじめに

公務職場の内部で非正規雇用が増加している。のみならず、公務から切り離された部分(民間営化、民間委託、指定管理者制度など)でも、低賃金雇用がひろがりを見せている(以上を総称して官製ワーキングプア問題)。見方を変えれば、官製市場「改革」の「成果」ともいえる。

本稿では、今年、ゼミの学生と取り組んでいる前記テーマの

うち、民間委託分野で働く清掃労働者の実態を報告する。手元の文献^{注1)}によれば、直営と委託を比較すると、委託は直営の半分以下のコストでごみ収集が可能であるという。そうした官民の「働き量」の大きな差は、官の硬直的な^{注2)}給与の支払いに対して、「民間ではごみを収集する量に応じて給与、手当が増額されるシステムになっており、それが働く意欲への刺激となっている」からだという。この種

の文献に目くじらを立てるつもりはないが、委託現場は果たして上述のとおりなのか、みていこう。

なお本稿は、現在進行形の調査の結果を、本号の特集に間に合わせるため急ぎ執筆した、中間報告的なものである^{注3)}。

■委託費と清掃労働者の年収の動向

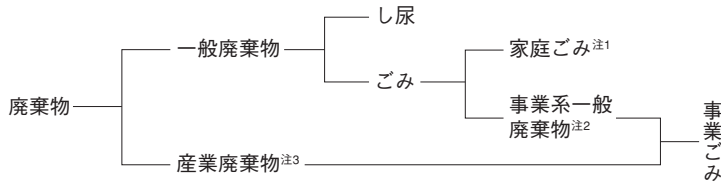
私たちの暮らしは、廃棄物(以下、ごみ。図表1)の収集・処理

なくして成立しない。だが、そこで働く人たちに世間はさして関心がないようで、彼らの労働条件を規定する委託費に關しても、安ければそれだけ税金が節約できてよいという風潮さえ感じる。

仕事量当りの委託費データが入手できなかったもので、市の資料を使って、便宜的に試算してみた。家庭収集ごみの中でも委託費が最も大きい(08年実績で委託料全体の半分を占める)「燃やせるごみ」の収集量と委託費データをを使い、トン当りの委託費の推移をまとめた(図表2)。ここ数年こそやや上昇傾向にあるが、かつて1万1千円を超えていた委託費は、いちはどは9千円を割るまでに下がっている。

清掃労働者(民間の「廃棄物処理業」)の労働者の賃金データを政府統計で整理したところ、全体平均よりも大きく下落し、両者の差がひらいている(図表3)。委託費と賃金動向のデータ整理が課題である。なお、年功制カ

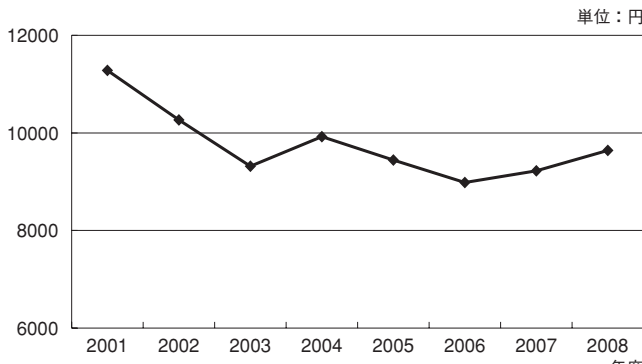
図表1 廃棄物の種類



注1：家庭生活にともなうもの。
 注2：事業活動で生じたもので産業廃棄物以外のもの
 注3：産業廃棄物の種類については省略。
 出所：札幌市資料より。

■**ごみ収集量と雇用の不安定**
 プが低いこと(16ページ図表4)も清掃の賃金の特徴だ。
 市のヒアリングによれば、直営は全員が正規雇用だという。それに対して委託分野では、全

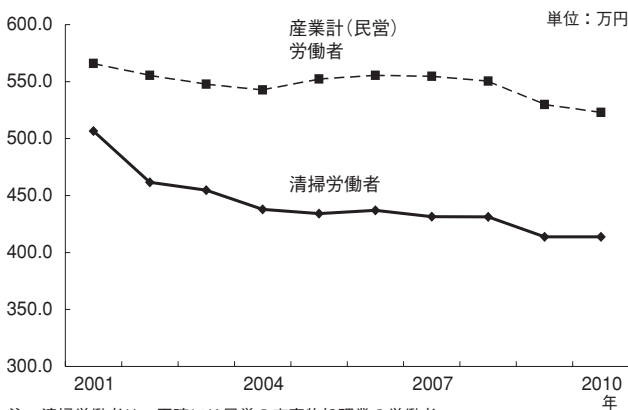
図表2 「燃やせるゴミ」トン当り委託費の推移



注1：札幌市から提供された「燃やせるごみ」の収集実績(委託部分)と委託費で算出。収集方法等に変化がないことを前提とした、あくまでも便宜的なデータである。
 注2：ごみ有料化や新たな分別収集が始まる前の年度(2008年度)まで掲載した。

員を正規雇用で雇うことはできず、常時・直接雇用している非正規雇用(全体の3〜5割)のほかに、「人材紹介」を使っているという。委託料水準の問題に加えて、曜日によるごみの量の変動が、その背景にある(以上、事業者ヒアリング)。
 柔軟な雇用の使用を仮に認めるにしても、労働力の調達方法・

図表3 平均年収額の推移



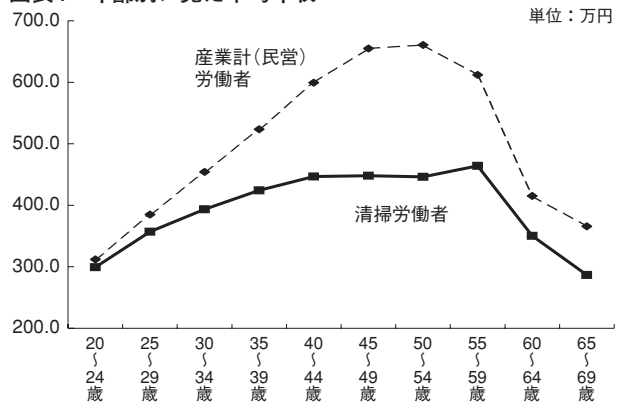
注：清掃労働者は、正確には民営の廃棄物処理業の労働者。
 出所：厚生労働省「賃金構造基本調査(各年版)」より作成。

労働規制のありかたは個別企業に任せず業界全体で取り組むべき課題といえよう。
 ■**労働者アンケートにみる清掃労働者の姿**
 回収されたアンケートのうち、主な仕事内容がごみ収集(さらに、主に運転と主に収集にわかれる)と回答した123人に限定

にアルバイトをしなければ生活できない!」との声に納得である。しかも日給月給制ないし時給制なので収入は不安定だ。「運転する日としない日では日給が違う、月の給与が定まらないので生活が不安定」
 一時金や諸手当があるとはいえ、正規雇用でも収入が低いことは強調しておかなければ

して結果をみる(図表5)。無回答は除いているので、有効回答は必ずしも一致しない。
 ・非正規は6割が年収200万未満、正規でも3分の1は年収300万未満
 まず非正規の収入の低さに驚く(図表6)。全体の6割が、毎月の手取りが15万未満で、年収(税込み)が200万未満だ。「他

図表4 年齢別に見た平均年収



注：図表3に同じ。
出所：厚生労働省「2010年賃金構造基本調査」より作成。

図表5 雇用形態・主な業務形態別に見た回答者

正規・運転 56人	正規・収集 18人
非正規・運転 16人	非正規・収集 32人

注：運転と収集の両方に○をつけていた1人(非正規)は除く。

図表6 雇用形態別にみた収入状況

単位：%

		正規 n=70	非正規 n=50
a. 税金等をひかれた毎月の平均的な手取り	15.0万円未満	11.4	60.0
	(再掲)17.5万円未満	52.9	98.0
	(再掲)20.0万円未満	80.0	100.0
		n=72	n=43
b. 2010年の年収(税込み。ボーナスや諸手当の全てを含む)	200万円未満	6.9	62.8
	(再掲)250万円未満	13.9	86.0
	(再掲)300万円未満	31.9	95.3
		n=72	n=51
c. 世帯における最大の収入源	あなた自身の収入	83.3	64.7

注1：aとbの各金額に対する値は、累積値である。
注2：bの対象からは、勤続1年未満の回答者を除いた。
注3：cは世帯の最大の収入源を1つのみ選択してもらった。残りは、「妻」や「親」を選択、あるいは「本人と妻」など複数選択。

図表7 札幌市(直営)清掃職員の収入等

職員数	平均年齢	平均給料月額 (基本給のみの額)	平均給与月額 (諸手当込みの額)	年収ベース (試算値) ^注
602人	46.6歳	321,015円	424,201円	6,502,774円

注：平均給与月額を12倍したものに、前年度に支給された期末・勤勉手当を加えた試算値である。実際には寒冷地手当等がここに加わる。
出所：札幌市資料より作成。

も正社員になれない」「ボランティアではないので、生きていくにかなりの賃金は欲しい」直営の労働者との賃金格差は歴然としている(図表7)。

—ごみ収集業務は楽ではない
仕事や労働条件にみる悩み

図表8は、労働条件・働き方や仕事に関する悩みを28項目にわたって尋ねた結果の一部だ。先にもみた、賃金をめぐる訴え(賃金の低さ・昇給のなさ・社会的評価の低さ)がまず目立つが、ほかにも、働き方・ごみ収集業務に関する訴えも少なくない。清掃労働体験・参与観察ということ、1日だけ仕事(資源ごみの収集)を体験させてもらったが、労働密度の高さが印象的だった。

作業員は、車両が停止すると同時にすべるように降りていき、ごみを積み、積み終わると同時にまた車両に飛び乗るか、次のステーションまで駆けていく。

もちろん積み込み時には、危険物や別種のごみの混入に注意

なるまい(図表には示していないが、全体の3分の2、つまり66・7%が350万円未満だ)。

しかも、両者ともに、その多くは、みずからの収入が主たる収入源なのだ(図表6のC)。

「給料が安くて、生活がぎりぎり

り。預貯金できない」「ゴミ屋に對しては見下してる風潮を感じる」「これから結婚を考えていますが、15万そこそこの月給」「何年たっても昇給もなければ、賞与も、冬季手当もない」「会社の決まりで、作業員は何年たつて

「給料が安くて、生活がぎりぎり

り。預貯金できない」「ゴミ屋に對しては見下してる風潮を感じる」「これから結婚を考えていますが、15万そこそこの月給」「何年たっても昇給もなければ、賞与も、冬季手当もない」「会社の決まりで、作業員は何年たつて

「給料が安くて、生活がぎりぎり

り。預貯金できない」「ゴミ屋に對しては見下してる風潮を感じる」「これから結婚を考えていますが、15万そこそこの月給」「何年たっても昇給もなければ、賞与も、冬季手当もない」「会社の決まりで、作業員は何年たつて

図表8 労働条件・仕事に関する悩み、不満、不安等(複数回答)

単位：%

	正規 n=72	非正規 n=51
ア. 仕事内容のわりに賃金が低い	61.1	51.0
イ. 昇給がない・ほとんどない	66.7	45.1
ト. 仕事に対する社会的評価が低い	44.4	37.3
エ. 仕事量が増えた	30.6	7.8
キ. 有休がとりにくい	23.6	13.7
サ. 仕事がきつい	25.0	13.7
ス. 体調が悪くても休めない	18.1	21.6
ソ. 悪臭がひどい	20.8	13.7
タ. 湿気や温度がひどい	19.4	27.5
ツ. 体に負担がかかる姿勢での作業が多い	33.3	19.6
ネ. 住民からの苦情や無理な注文がある	37.5	23.5

注：実際には、「その他」を含む28項目の有無を尋ねている。訴えの多いものを中心に、内容別にまとめた。

図表9 雇用形態別にみた疲労の蓄積

単位：%

	正規 n=71	非正規 n=51
1晩睡眠をとればだいたい疲労は回復する	28.2	41.2
翌朝に前日の疲労を持ちこすことがときどきある	28.2	39.2
翌朝に前日の疲労を持ちこすことがよくある	31.0	15.7
翌朝に前日の疲労をいつも持ちこしている	12.7	3.9

を払い、乱雑なステーションは清掃も行う。路上が仕事場なので、車両や歩行者との接触にも注意しなければならぬ。しかも時間内に仕事を終わらせるためには一連の作業にはスピードが必要だ。夏場を中心に、腐敗や悪臭等にも悩まされる。

「燃やせないごみ収集時、頻繁に火災が発生」「生ごみが特に悪臭がひどい。収集車に投入する

とき、袋が破け、中の水分が飛び、全身にかかる「車両に冷房がないので、夏は熱中症に」「ステーションがゴミ箱化。ねずみ、ハエ等の繁殖による健康不安」

加えて、みずからのごみ出しマナーの悪さは棚に上げ、市民からの苦情が少なくない。だが、市の仕事の受託者としては、市民に対しては低姿勢にならざるを得ないのもつらいところだ。

運転者の労働密度も高い。街中なので、歩行者等にも気をつけながら、たくみなハンドルさばきで大型(中型)車両を操作し、運転・停止・発進が繰り返される。「同じ大型でも、長距離トラックとは違った疲れがありますよね」とは運転者の言だ。しかも、運転に専念するだけでなく、作業員と一緒に頑張ってごみを積む。

と、その日一緒にまわってきた彼の苦々しいコメントに複雑な気分になった。

巷の公務員バッシングに加担するつもりはないが、ただこうは思う。公務労組が築き上げてきた働き方や賃金に関する規制を、民間部門にも波及させるような、官と民の労組が一体となった取り組みがなければ、民間委託の「外圧」は食い止められないのではないかと。

■官民一体の取り組みを

清掃労働体験の日、昼食休憩で立ち寄った清掃事務所の構内で、サツカーに興じている労働者集団がいた。現業職場ではまだこうした風景が残っているのだなどのどかさを感じていたら、

「俺ら民間労働者と違って、彼ら公務員は仕事の量も少ないですから。横になって午後には備える俺たちとは違って元気ですよ」

公契約条例案の提出を前にして、どんな運動が今後展開されるのか、労組に問われている。

.....

(注1) 坂田期雄「民間の力で行政のコストはこんなに下がる」時事通信社、06年。

(注2) 家庭ごみの受託事業者とそこで働く労働者、そして札幌市からのヒアリングを行ったほか、労働者を対象としたアンケートを実施。アンケートは、札幌地域労組・友の会(本誌560号を参照)ルートで行った。なお、札幌の清掃事業については前記の号の大島論文を参照。